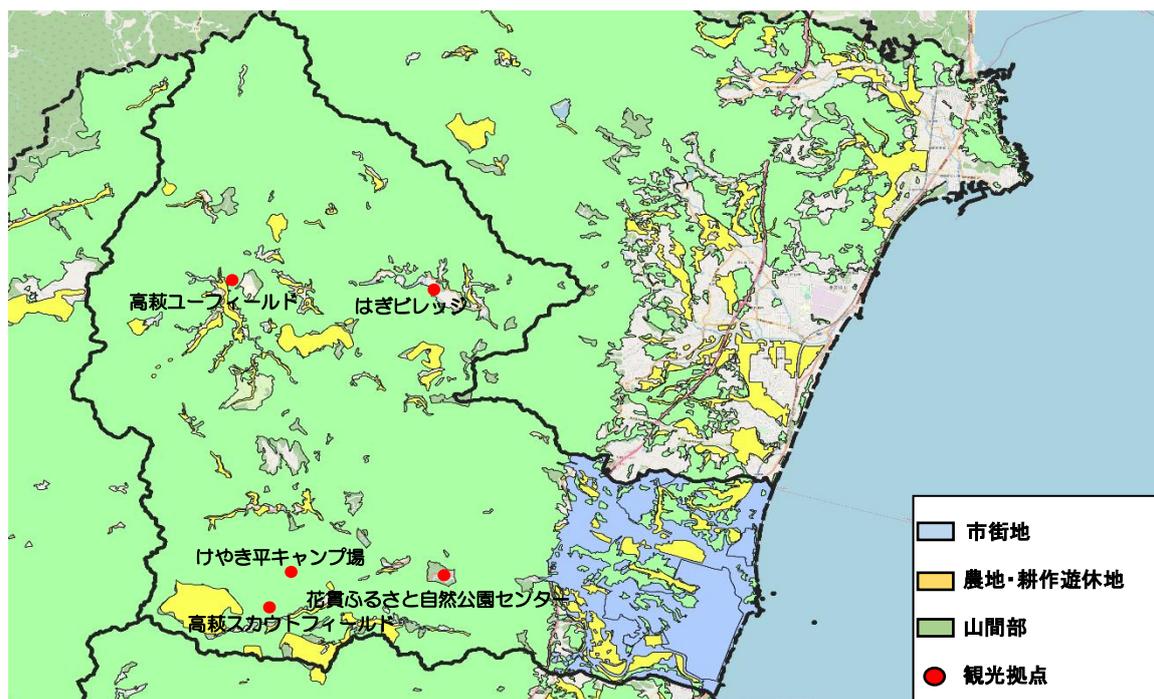


## 5 地域特性を踏まえたビジョンの方向性

### (1)ポテンシャルを基にした方向性

アンケート調査結果や導入ポテンシャル、地域特性を精査し、再生可能エネルギー導入における可能性についてゾーニング※した結果を以下に示しました。



本市のポテンシャルからゾーニングされた再生可能エネルギー

種別	導入可能とされた再生可能エネルギー
1.市街地	高萩駅とその周辺の建築物に太陽光発電と蓄電池※
	スマートモビリティ※の活用による来訪者の増加促進
	公共施設の太陽光発電拡張と蓄電池の導入
	ネットゼロエネルギーハウス(ZEH)・ビル(ZEB)※
2.農地・遊休地	ソーラーシェアリング
	新たな農業経営※の波及
3.山間部	複合型バイオマス発電※
	中小水力発電
	風力発電
4.観光拠点	自立型再生可能エネルギーの導入
	スマートモビリティ※波及による観光促進

## (2)再生可能エネルギーの導入ビジョン

市全体の土地利用と、市民からのアンケート調査結果、再生可能エネルギーのポテンシャル調査を踏まえ、前項のゾーニング結果が絞られました。

以下に4つのエリアが目指すべき将来像をクローズアップし、今後のビジョンについて参考となる具体事例を含めて示しました。



### ① 市街地 de にぎわい まちづくり創出

高萩駅とその周辺では太陽光発電と蓄電システム<sup>※</sup>を導入し、災害時に備える。公共の建物や工場等には ZEB(ゼブ)<sup>※</sup>、住宅等には ZEH(ゼッチ)<sup>※</sup>を推進する。

### ② 農地や遊休地 de 持続可能な地産地消

耕作地にはソーラーシェアリングの可能性が大きい。遊休地では太陽光発電だけでなく、再エネを活用したビニールハウス等を導入し、新たな果実や野菜類をつくる農家や事業者が増えるよう導いていく。

### ③ 山間部 de 未利用資源の利活用

未利用資源を活用した複合型バイオマス発電が有効である。開発済の施設(水路や堰等)を利用した水力発電が期待できる。

### ④ 観光拠点 de にぎわい再生

観光施設の老朽化が進んでいることから、改修に併せた再エネ導入やまちと観光地を結ぶ再エネを利用した交通を創出することにより、快適性及び利便性を向上させ、魅力度アップにつなげたい。

## ①市街地deにぎわい まちづくり創出

市街地のビジョンについて(A)中心市街地と(B)公共施設に分け、それぞれ以下のとおり示します。

### (A)中心市街地

#### ア ビジョンの方向性

高萩駅周辺で、再生可能エネルギーを活用した再開発を進め、「かつての賑わいを再生」する。

区分	内容
ゾーニング選定の理由	現在、かつて程の賑わいが見られない状況である。 本市の玄関口に再エネを導入し活性化に導く。 市街地の中心であり公共交通の中心。
開発の方向性	駅を中心として再生可能エネルギーを導入。 地域循環SDGs <sup>※</sup> を目指す。 市民が暮らしやすく、来訪者に快適な街並みを創出。
想定される施策	駅周辺は太陽光発電と蓄電導入、再エネ地産地消を推進。 駅とその周辺の商店街にはZEBを推奨。 市は、これらの導入を支援する国や自治体の補助金をスムーズに活用できるよう情報収集に努める。
期待される効果	市民や訪問者に駅周辺の利便性が向上。 市民の日常が便利で快適。集う空間の創出による活性化。 自然環境や歴史文化、農畜産物を求める来訪者が増加。



かつての駅前

平成14年 8月20日(里山ウォーク撮影)

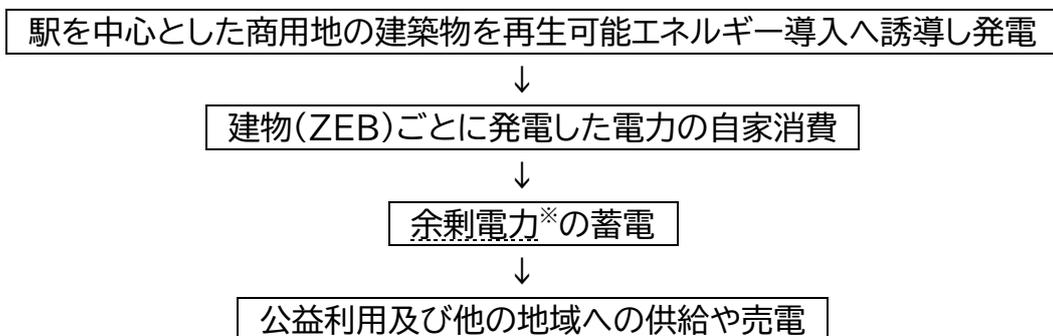


現在の駅前

## イ 想定される施策

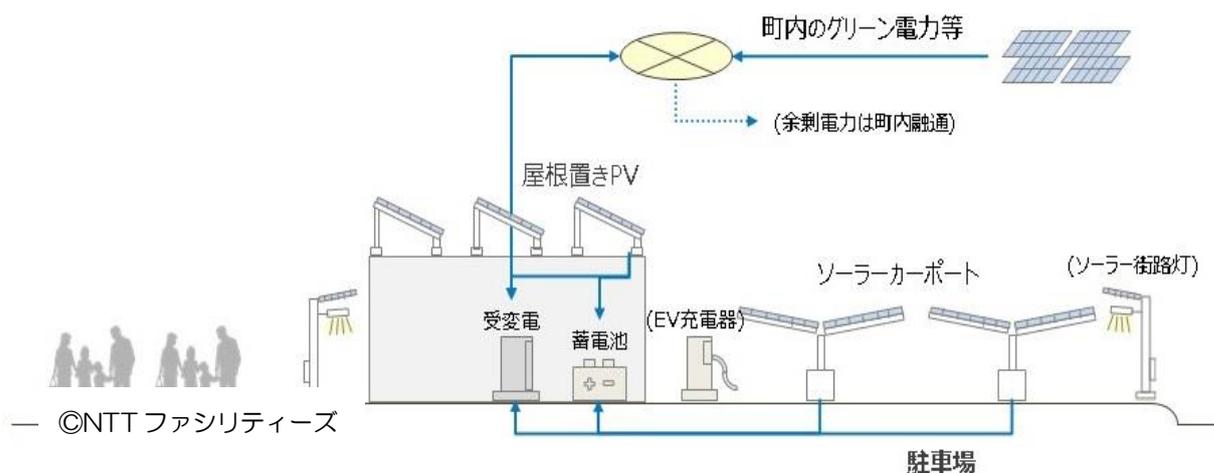
太陽光発電	高萩駅周辺のにぎわい創出の中心施策として積極的に取り入れる。
蓄電システム	蓄電システムを導入して災害時電源 <sup>※</sup> に備える。 蓄えた電力を日常的には人が集うスペースに提供。
新モビリティ	EVターミナル <sup>※</sup> を設け、公共又は民間レンタカー事業者の設置。 EVバス <sup>※</sup> 等による市内公共交通・観光の出発拠点。
ZEB化	駅周辺の再開発の推進。 ZEB化の実現によるゼロカーボンシティの構築。

ゼロカーボンシティモデルとして、高萩駅を中心に持続可能な開発を行う。



### <可能とされる公益利用>

駐車場、アーケード、標識、外灯、信号機、看板、サイン、動く歩道<sup>※</sup>、エレベーター、トイレ  
コミュニティセンタ、地産地消販売施設<sup>※</sup>、EVターミナル、災害時避難施設、観光拠点スペース



— ©NTTファシリティーズ

<高萩駅周辺にぎわい創出のイメージ>

- ・再エネを導入し快適な空間を創出し賑わいを再生



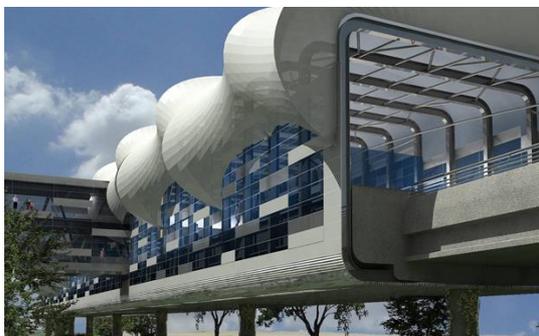
太陽光発電を利用しZEB化した山梨県北杜市「小淵沢駅」 ©JR東日本

- ・新モビリティ※EVターミナルとEVバスの運行



©トヨタ自動車 e-palette

- ・BCP(地域循環共生圏※による事業継続計画)を構築し、日常は賑わう駅前へ  
災害時は避難施設と電力供給の拠点として設置



©Estacion Mote Tabor

◎「エコステ」 JR 東日本の取組◎

「エコステ」とは、省エネルギー、再生可能エネルギーなど、さまざまな環境保全技術を駅に導入する取り組みのことです。「省エネ」・「創エネ」・「エコ実感」・「環境調和」を4つの柱として掲げ、それぞれのエコメニューが駅に導入されています。(平成31年3月現在 10駅)

平成30年12月には、「エコステ」モデル駅整備を通じ、環境保全に積極的に取り組んだ点が評価され、国土交通省大臣から「平成30年交通関係環境保全優良事業者等大臣表彰」を受賞しました。



その中でも「小淵沢駅」では、国内有数の日照時間を誇る山梨県北杜市に位置していることから、駅舎に太陽光発電設備や太陽熱利用設備を導入しました。これにより、晴天日の日照時間帯における駅消費エネルギーを100%太陽エネルギーでまかなうことができます。

(平成29年7月使用開始)



「小淵沢駅」外観

太陽光の利用

©JR 東日本 ホームページより抜粋

## (B)公共施設

### ア ビジョンの方向性

公共施設の自立型ZEH・ZEBへの改修に併せ民間建築物も再エネ化に誘導。公共施設を中心としたマイクログリッド※を構築し、お互いを接続することでゼロカーボンシティの実現につなげる。

区分	内容
ゾーニング選定の理由	建築物に付帯する太陽光発電のポテンシャルが高い。 公共施設の周辺は建築物が多く隣接している。 再生可能エネルギーを地域協働で活用。
開発の方向性	公共施設へのZEBの積極的な導入。 市街地にはZEH・ZEBを誘導。ゼロカーボンシティの実現。
想定される施策	太陽光発電と蓄電を併用し、建築物の再エネ自家消費を推進。 公共施設を中心としたマイクログリッドへ接続。 マイクログリッドで余剰電力を有効活用。 市は、これらの導入を支援する国や県の補助金をスムーズに利活用できるよう情報収集に努める。
期待される効果	自家消費による持続可能な公共施設と住環境の実現。 持続可能な開発による「新たな産業や雇用※」の創出。 「災害に強い街※」防災に対する強靱化。 ゼロカーボンシティによる地域循環共生圏の達成。

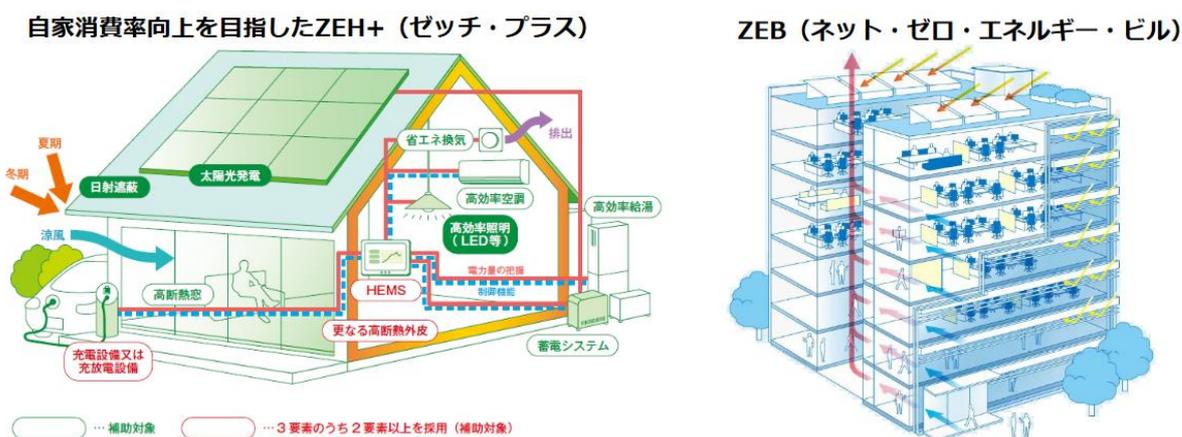


「高萩市役所」

## イ 想定される施策

太陽光発電	ZEH・ZEBの基本的発電方式。屋根だけでなく技術革新で壁に貼る軽量なモノや窓ガラスでの発電も行われている。
蓄電システム	蓄電システムを導入して災害時電源に備える。 日常的には自家消費を行い、余剰電力はマイクログリッドへ供給する。
ZEH・ZEB化	電力の自家消費。様々な技術の集積により改修による実現も可能。
EV等を利用	EV・PHV・FCV <sup>※</sup> を導入。災害時は非常電源や蓄電池に。

- ・公共施設をZEH・ZEB化 → 再エネ自家消費でゼロカーボン  
防災に対する強靱化  
有事の避難施設利用  
ゼロカーボンシティ実現プロセス



- ・新しい公共施設 ZEH・ZEB 蓄電池を利用した自家消費型  
屋根・壁 太陽光パネル・蓄電池  
EMS<sup>※</sup>（分散地域グリッド<sup>※</sup>の制御）  
高断熱<sup>※</sup>・地中熱利用  
感染症予防に対応した換気を含む高効率空調<sup>※</sup>  
二酸化炭素を固定したコンクリートの利用<sup>※</sup>  
クリーンエネルギーカー<sup>※</sup>（蓄電及び発電利用）

- ・周辺建築物への再エネ誘導 再エネ自家消費で電気代がかからない  
再エネを造り出し地域へ参画を啓発  
マイクログリッドへの準備  
「災害に強い街」構築への要素  
地域防災のレジリエンス（強靱化）

- CEMSを導入し自立分散型マイクログリッドを目指す  
公共施設にCEMS(コミュニティエネルギーマネジメントシステム※)を導入

↓

マイクログリッド創出  
電力の地産地消  
余剰電力の有効活用(他グリッドへの送電、売電)  
災害時にも活用

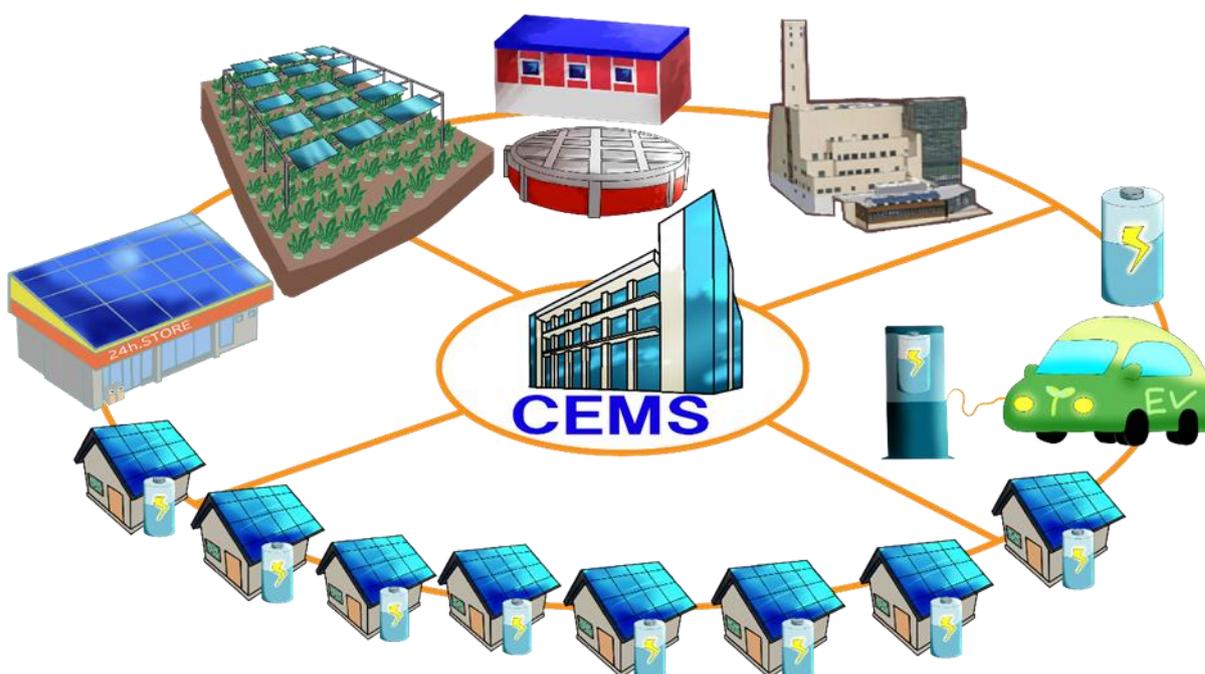
- 複数のマイクログリッドの接続

点在する公共施設を中心にした多くのマイクログリッドを創出

市民が自ら再エネを造り消費(脱炭素の実現→ゼロカーボンシティ)し、  
余剰電力による地域参画※(地域循環共生圏への第一歩)

自家消費した残りの余剰電力を集め、売電や他のグリッドへ供給  
電力を買う側から売る側への転換

多数のマイクログリッドを接続し全市に拡大 → **ゼロカーボンシティ**

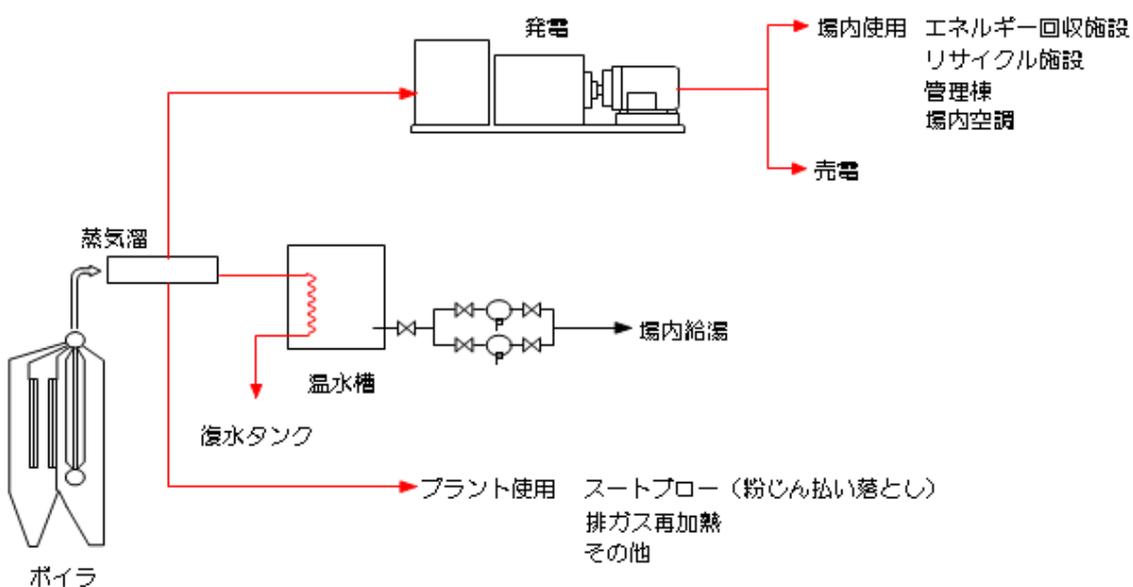


◎廃棄物焼却施設の熱利用◎

現在、高萩・北茨城広域事務組合にて新施設の建設を進めています。この施設は廃棄物を焼却する際の熱を利用して発電を行い、その電力を施設で利用します。将来的には発電後の蒸気熱までも利用する施設となります。また、環境学習施設としての利用も考慮されています。



焼却熱利用のイメージ



## ②農地や遊休地de持続可能な地産地消

### ア ビジョンの方向性

様々な事情で「遊休している農地等」を営農型ソーラーシェアリング※で活性化する。また耕作中の農地へ営農型ソーラーシェアリングを導入し、マイクログリッドへ接続。農業経営の安定化から、「後継者不足の解消」や「付加価値の高い作物」を生み出していく。

区分	内容
ゾーニング選定の理由	造成等の開発が不要。← 自然環境・生物多様性の保全。 耕作遊休地の活用と営農型発電による農地法の緩和。 農業に対する後継者不足の解消。
開発の方向性	農地や耕作遊休地に再生可能エネルギーの導入を促進。 地域循環SDGsを目指す。
想定される施策	農地や耕作遊休地で地産電力を創り出す。 マイクログリッドに接続し、ZEH・ZEBの余剰電力で賄えない産業用や公益利用の電力を確保する。 市は、これらの導入を支援する国や県の補助金をスムーズに利活用できるよう情報収集に努める。
期待される効果	農業の経営安定化。魅力度アップ！→後継者不足の解消。 持続可能で永続的な営農体制の確立。食料の自給率※向上。 経営安定化→付加価値の高い作物への取組が可能。 美味しい作物の収穫、輸送費の削減→地産地消の実現。 「高萩ブランド」を増進し、「都市」へ販売。 本市が有する自然豊かな環境や農林業に着眼し、本市への来訪者が増加することが期待される。



©市民エネルギーちば(株) 匝瑳市 メガソーラー発電所

## イ 想定される施策

営農型ソーラーシェアリング	農地法の緩和を利用し営農型の再エネを導入し、様々な問題を同時解決しながら持続可能な農業生産を実現
地産地消の促進	経営の安定化から生まれる付加価値の高い安心な作物を地産地消



©市民エネルギーちば(株) 匝瑳市 メガソーラー発電所

### ・遊休地の活用

様々な事情から遊休している耕作地や原野を営農型の発電で活性化し、再エネ電力の地産と農作物の増産を目指す。

### ・新しい営農

後継者や人材の確保が難しい農業に再エネを導入し、再エネ電力での安定的収益を主体とした付加価値の高い営農を実現することで、専門職としての魅力を高め、持続可能な人材の確保、持続可能な再エネ電力の地産と商品価値の高い農作物を収穫する。

## ・新しい地産地消

地域で意見交換の場を持てるような市場を形成し、地消を進めながら、地域の発想を取り入れ磨き上げ、高品質なモノを造り出し、全国の品評会等で入賞を目指す。再エネを導入した営農で作られた地場野菜などを地消することで支援し、エネルギーだけでなく食料自給率を向上させ、地域での循環経済を確立し、同時に地域収益を上げる「高萩ブランド」を持続可能なカタチで創り出す。

### ◎「高萩ブランド」推奨品の例 ◎

#### ・花貫フルーツほおずき

山間地域で生産された食用ほおずき、上品な香りと複雑な味わいが特長です。  
花貫フルーツほおずき倶楽部 <http://hananuki-fruitshozuki.com/>



#### ・高萩ほおずきジャム 高萩ほおずきバター

農薬、化学肥料不使用で育てた高萩ほおずきを加工したジャム・バターです。  
結農実WORKS <https://shop.yunomi-works.com/>



#### ・つるつき高萩いちご

高萩初のいちご農家で栽培している自慢のいちごです。3センチメートル程のつるがあるため完熟状態での日持ちがききます。大粒で糖度13度以上のものを厳選、食べ応えと甘さを堪能できます。

高萩農産物直売所（高萩市本町1-100-2 電話番号:0293-23-8311）



## 新しい営農の事例① ◎市民エネルギーちば株式会社◎

### 環境負荷最小の再エネ【ソーラーシェアリング】と有機農業の融合による地域再生

#### 市民エネルギーちば株式会社

【住所】〒289-2106 千葉県匝瑳市飯塚 1037-1 【TEL】 0479-85-6760

【URL】 <https://www.energy-chiba.com/>

#### 活動概要

緩和・適応分野

#### 取組の概要

耕作放棄地を利用し、太陽光発電とその設備下で不耕起栽培による営農をすることで、CO<sub>2</sub>の吸収、土中炭素量増加、雇用の創出にも貢献している。化学肥料・農薬を使用せず、農機具はBDFや太陽光発電による電力を使用している。

#### 気候変動対策としての貢献度

7年間で3MWの設備を設置して当エリア内の電気に関しては100%の再エネ化を実現できた。また、災害停電時の電力供給協定を匝瑳市と締結し、無料で地域住民に再エネ電力を提供している。「農業」と「発電」で土地を活用することで経済密度を高め、経済合理性を導き出し持続可能な経済自立性を確立した、全国に波及する地域モデルを構築している。

#### 期待される波及効果

匝瑳市の人口減少率は、現在も歯止めがかかっていないが、当地事例が取り上げられるなどソーラーシェアリングのメッカとして注目が高まってきており、当豊和地区に関して言えば、この7年間で多くの新規住民を受け入れ雇用を創出してきた。また、『アグリバレー』構築で有名な宮崎県新富町のソーラーシェアリング導入プロジェクトをはじめとして、その他複数の地域深耕型ソーラーシェアリング導入にかかわっております。

#### 刷新的要素

再エネ・有機農業・雇用・人口減少などを別々・単体の問題としてとらえるのではなく、全てを繋がった問題として捉えて解決を進めており、地域事例として全国の模範となるべくありとあらゆる角度から環境に配慮した活動を実施している。また、発電事業者やステークホルダーだけが利益を得るのではなく、農村経営全体からの視点で未来的で希望あるインフラ事業として地域モデルを構築している。

#### 今後の計画、持続的な展開の展望

##### 【地域内再エネ電力供給網の構築】

経産省のマイクログリッド事業に採択され、共同申請者であるエネオスホールディングス(株)と協力して、まずは非常時の地域内の再エネ電力網を構築。今後は通常時も含めた地域内電力網を構築していく予定。エリア内だけでなく匝瑳市全体としての再エネと食料自給率100%実現する。



不耕起&有機栽培の麦収穫⇒六次化 / 雇用創出



都市と農村を繋ぐソーラーシェアリング収穫祭

◎令和3年度気候変動アクション環境大臣表彰 より抜粋

## 新しい営農の事例② ◎株式会社愛テックファーム◎

「株式会社愛テックファーム」は、茨城県の中でも自然豊かで水が綺麗な高萩市、その観光名所である花貫溪谷の近くに農場を構え、太陽光型の水耕栽培でリーフレタスを中心に新鮮な野菜を栽培しています。出荷も新鮮な作物を届けるため毎日行い、関東圏の量販店や自社の自動販売機で販売しています。

創業は、高萩市春日町で産業用の火薬等を扱っている会社「アイテック」の系列子会社として平成29年9月に設立し、農林水産省の振興事業「強い農業づくり交付金」を活用して高萩市秋山に現在の農場を創立。令和元年に社員パートあわせて40名の規模でリーフレタスの水耕栽培による生産と販売を開始しました。

栽培施設は約8500平方メートルの敷地に農業用ハウス15棟を建設。太陽光型の水耕栽培でハウス内の気温や湿度、日射量などをコンピューター管理し、環境制御された大型のハウスの中で、リーフレタスを周年栽培しています。事業開始当初の施設設計の段階からGAP認証取得を見据え、現在はJGAP認証を取得。生産においては安定した品質と収量を実現しています。その生産規模は、1日5千株、年間174万株を生産。宮崎県の「ひむか野菜工房」が栽培技術を支援し、農林水産省の「強い農業づくり交付金」によりこの農作物による食品工場と呼べる事業を実現しています。

徹底的な衛生管理により病害虫の発生を極限まで抑えて農薬散布を限りなく減らした安心安全で美味しい農作物です。天候に左右されにくいハウス栽培の利点を生かし、販売価格を年間通して固定価格で販売しています。事業開始から3年目になる令和4年時においても、社員、パート従業員合わせて30名以上の方が働いており、ハウス内はキャップとゴム手袋着用、外履厳禁で外からの病害虫の侵入をできるだけ抑えています。どの作業場を見ても整然と整えられ、あらゆる作業についてマニュアルを用意し、それを携わる全員でより実効的なものにブラッシュアップしていく等、「基本の共有」と「意識の向上」が相乗効果を生み出し、「持続可能な企業経営」を実現しています。

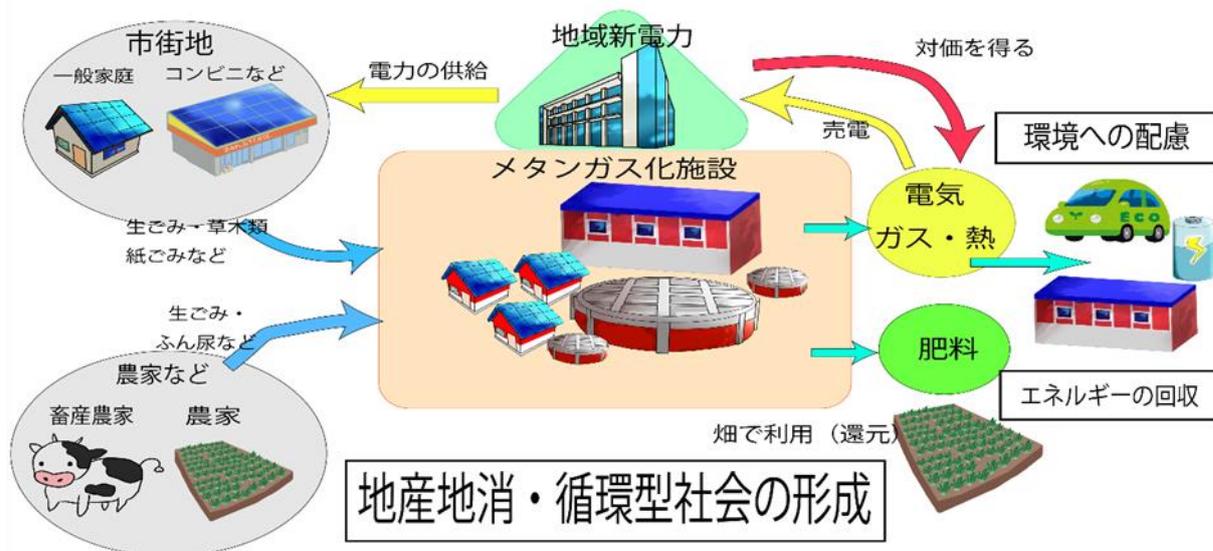


### ③山間部de未利用資源の利活用

#### ア ビジョンの方向性

再エネポテンシャルを活用し開発するだけでなく、生物多様性※を含めた自然環境を保全しながら、「持続可能な開発」で再エネを創出する。

区分	内容
ゾーニング選定の理由	<p>広大な森林資源(現状は国有林や自然公園)。  畜産資源から排出される未利用の糞尿等。  水力発電のポテンシャルのある河川。  既設で複数の水力発電所。  山間部での風力発電のポテンシャル。</p>
開発の方向性	<p>豊かな自然環境・生物多様性の保全。  未利用資源(間伐材・家畜糞尿等)の活用による環境保全。  既設水力発電所の強靱化と地域送電網※への取り込み。  将来の技術革新を利用した風力発電。</p>
想定される施策	<p>複合型バイオマス発電所の検討(メタン、木質、水素)。  ※将来は再エネ製造水素を備蓄し計画利用する。  将来的な風力発電や中小水力発電の検討。</p>
期待される効果	<p>畜産業や林業、森林保全の経営安定化※。  廃棄物の減量化(メタン発酵による生ごみや下汚泥の資源化)。  メタン発酵から生まれる液肥※や堆肥利用による農業支援。  気候の変動に影響されない再エネの生産。</p>



## イ 想定される施策

複合型バイオマス発電の検討	通常はメタン発酵由来のメタンガス <sup>※</sup> や木質を主体に補助燃料で化石燃料 <sup>※</sup> を使うが、将来的な水素エネルギー使用も考慮する。
水力発電の利用	既設の水力発電をマイクログリッドに接続することで地産地消。
小水力発電の利用	河川を開発し生態系 <sup>※</sup> に負荷をかけるのではなく、水路などの人工物を利用した小水力発電を開発する。

### ・畜産等のリサイクル

畜産業から排出される家畜糞尿等をメタン発酵により資源化しバイオマス発電を行う。メタン発酵は生ごみ等にも有効で一般家庭での分別が進めば従来の廃棄物処理施設から分離が可能になるので廃棄物の減量化にもつながる。



メタン発酵バイオマス発電 ©鹿追町

### ・森林資源のリサイクル

樹木は、CO<sub>2</sub>を吸収する重要な自然環境であるが、樹齢が進むとその吸収量は減少する。また、間伐を行い、太陽光を取り入れることで森林環境が活性化する。維持管理のための間伐や剪定等の森林資源<sup>※</sup>を利活用したバイオマス発電が考えられるが、本市は山間のほとんどが国有林と自然公園であるため、事業性のある資源量は現状で求められない。将来の活用を含め、メタン発酵や水素を利用した発電施設と供用できる複合型バイオマス発電が有効である。



木質バイオマス発電 ©日立造船

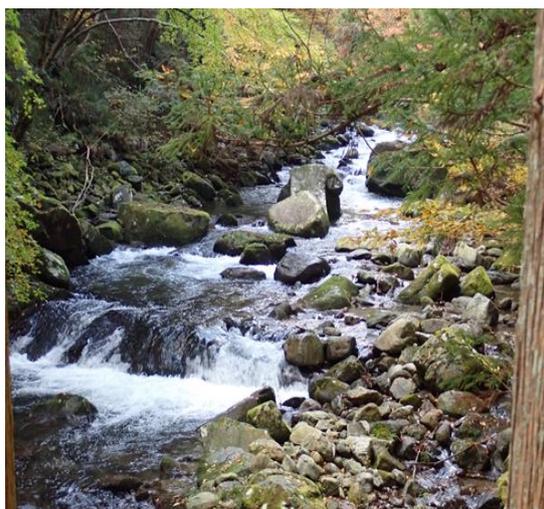


### ・既存の水力発電所の活用

水力発電の歴史は古く、電力利用の黎明期より長く使われてきた。化石燃料に依存した火力発電や原子力発電が主流になる以前は、発電の花形的存在で日本の地形や自然条件に有効な再エネである。国は再エネ活性化の政策に併せて既存水力発電に対する支援をしている。国の支援を利用し、今後数十年使えるよう整備を進め、本市のマイクログリッドが確立したときには、民間の所有会社と交渉し、地産電力として有効活用することを目指す。

### ・今後の中小水力発電

山間部の河川における再エネポテンシャルは有効であるが、水量や水流が見込まれるエリアは豊かな生態系を育む場所である。持続可能な自然環境の保全と生物多様性を保護していくためには慎重な開発が必要である。今後の開発として、既存の水路や開発済みの堰等を利用することも有効な手段と考えられる。



秋田県湯沢市 ©養魚場「イワナの里」

高萩市 大北川 栄橋付近



「花貫ダム」点検放流の姿

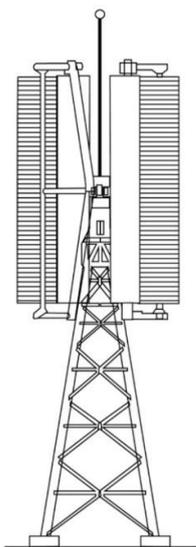
## ・風力発電の可能性

本市の山間部は風力発電に適した風に恵まれているが、傾斜地に対応できること等の設置条件が厳しく、大型設備の導入が困難である。従来の大型のプロペラを装備した水平軸型の風力発電は、「穏やかな気候」・「専門的で高度な維持管理技術」・「住環境に影響のない距離」が必要で、使い続けるために膨大な費用がかかってしまうのが現状である。また、自然環境への影響に対する知見も乏しく、慎重な計画が望まれる。

設置面積が小さく、日本特有の気候に対応できることや、故障が少なく維持管理が容易であること、それら以外にも様々な条件を踏まえた技術革新を待ちつつ検討を進めていく。

### 新しい風力発電の事例 ◎株式会社チャレナジー◎

伝統的な水平軸型の考えを転換した垂直軸型の風力発電\*設備が注目を集めています。設置面積の効率は太陽光発電と同等ですが、従来利用できなかった強風時においても発電が継続できる性能(耐風速70m/s)があり、台風時にも利用が可能です。軸を垂直にしたことで設置面積以上の影響範囲を持たない、風向も360度対応な事も利点です。低速回転のため、鳥がぶつかりにくく、騒音が起きにくい、避雷針を一番高い位置に設置できるため耐雷性にも優れています。発電能力についても現状の10倍の能力を実現する計画を推進しています(令和3年現在)。



垂直軸型マグナス式風力発電機

©株式会社チャレナジー



風速70m以上に耐えたフィリピンの初号機

©株式会社チャレナジー

#### ④観光拠点deにぎわい再生

##### ア ビジョンの方向性

海や山に広がる豊かな自然の中にある、観光資源の魅力をさらに高めるために、再エネを利用することで快適性を向上させる。訪れる観光客を増やすと同時に、市民にも魅力的なアクティビティを発展させ、観光に行きたい街、住みたい街を実現する。

区分	内容
ゾーニング選定の理由	観光拠点を再エネで整備し、地域の活性化につなげる。 訪れる人を増やし、駅前活性化との同時解決を目指す。 市民が誇れる観光資源の持続可能な再開発と保全を図る。
開発の方向性	観光拠点に再生可能エネルギーを使い快適性を向上。 地域循環SDGsを目指す。
想定される施策	再エネを利用した新しいモビリティ <sup>※</sup> の導入で観光拠点までの快適性を向上。将来的には全市に拡大する。 公有の観光資源だけでなく、リピート率の高い民間の観光資源にも再エネ化を誘導し、観光やアクティビティの快適性を向上。魅力度をアップし、訪れる人を増やしていく。 市は、これらの導入を支援する国や自治体の補助金をスムーズに利活用できるよう情報収集に努める。
期待される効果	集客増による経済の相乗効果→新しい「高萩ブランド」。 四季を通じたリピート率向上→同時に高萩駅前の活性化。 魅力度アップによる他地域からの移住→市民人口の拡大。 全国でも稀にみる自然と再エネの環境教育施設。



## イ 想定される施策

新モビリティ	EV ターミナルを設け、EV カーシェアリングや EV バスで観光。再エネ交通網を開発し利便性を向上。
ZEH・ZEB 化	観光拠点に再エネを導入し、四季を通じた快適性を実現。
環境教育の充実	老若男女が集い「持続可能な開発」「地域循環共生」「生物多様性」「再生可能エネルギー」を学びあえる場を創る。

### ・新しい公共交通

高萩駅と観光拠点を結び、利便性を向上し、賑わいを創出。  
再エネ利用のモビリティサービスで次世代の基幹交通網を目指す。

### ・新しいモビリティサービスのイメージ

駅から観光地へのスムーズな移動演出。  
オンデマンド<sup>※</sup>な観光資源への公共交通手段。  
マイクログリッドで発電した電力を利用。  
自動運転への拡張性を備えた運行システム<sup>※</sup>(将来的には市全域へ)。  
駅前に停車場を兼ねた充放電施設<sup>※</sup>。



©トヨタ自動車 e-palette 2020東京オリンピックで活躍

## ・観光拠点

季節の寒暖に対応した快適性を向上することで、観光客や利用者の満足度を向上させ、四季を通じたリピートを実現する。また再エネを利用した自立型とすることで、救難施設としての利用が可能になる。現在ある技術を観光施設に応用することが考えられる。

### 高萩アウトドアフィールド「Hagi Village(はぎビレッジ)」



### けやき平キャンプ場



### 花貫ふるさと自然公園センター キャンプ場



## 「大和の森」 高萩スカウトフィールド



## 高萩ユーフールド



防災を考えた自立分散型水循環システムのシャワーやトイレ © WOTA株式会社

### (3)ビジョンの推進に向けて

ゼロカーボンシティ宣言に基づく脱炭素を基底にした自立分散型地域社会の実現を目指します。また、このビジョンを推進するにあたり市民・事業者・行政の協働が不可欠であり、国や県、周辺自治体とも連携し、専門の知見も取り込みながら、地域の抱える様々な問題の同時解決を図りつつ推進していきます。

